

主な新聞記事

(平成 20 年秋)

秋の叙勲 4028 人

民間は 42%

政府は3日付で、08年秋の叙勲受章者4028人(うち女性323人)を発表した。民間の受章者は全体の約42%。最上位の大綬章受章者は今春と同じ7人。旭日大綬章は元トヨタ自動車社長で日本経団連会長も務めた奥田碩氏(76)、読売新聞グループ本社社長の渡辺恒雄氏(82)ら4人が受章。また瑞宝大綬章は元侍従長の渡辺允氏(72)ら3人が受章した。(7面に受章者名簿、社会面に関連記事)

芸術文化分野では口(71)が旭日中綬章を受章。藤子不二雄(80)のペ五輪3大会で計5個の金メダルを獲得した元金メダルの遠藤幸雄氏(74)、俳優の井川比呂志(74)らも受章した。

佐志氏(71)、俳優の加藤剛氏(70)、映画監督の降旗康男氏(74)らが旭日小綬章を受けた。同時に発表された外国人叙勲の受章者は40人。米カーター政権の副大統領で、駐日大使も務めたウォルター・モンデル氏(80)が桐花大綬章を、米大リーグ・ドジャース元監督のトーマス・ランロータ氏(81)が旭日小綬章をそれぞれ受章した。(3頁末)

「身に余る光栄」
奥田トヨタ相談役

旭日大綬章を受けたトヨタ自動車相談役の奥田碩氏は「身に余る光栄。共に仕事に励んできた諸先輩、同僚、後輩の皆様を代表して、いただいたもの」と感謝のコメントを寄せた。奥田氏はトヨタで95年社長、99年会長に就任し、同社が世界有数のメーカーに飛躍する基盤を築いた。経済界では日経連会長を経て02年に日経連と経団連が合流して発足した日本経団連の会長に就任。小泉純一郎元首相の構造改革を支えた。

谷川貴史

日経新聞(朝刊 2 面)

秋の叙勲 4028 人

旭日大綬章に奥田氏ら

政府は三日付で秋の叙勲受章者四千二十八人を発表した。旭日大綬章には日本経団連会長を務めた奥田碩トヨタ自動車相談役(76)ら4人が受章。瑞宝大綬章には杉岡洋一元九大校長(75)ら三人が選ばれた。(受章者一覧を叙勲面、関連記事を社会面に)

内訳は旭日章九百二十七人、瑞宝章が三千一百一人。うち女性の受章者は三百二十三人で全体の八%。民間人の受章者は全体の四二%だった。旭日大綬章には奥田氏のほか大西淳四国電力会長(74)、滝井繁男元最高裁判事(72)、渡辺恒雄読売新聞グループ本社会長(82)が受章した。瑞宝大綬章の受章者は杉岡氏のほか、有馬龍夫元ドイツ大使(75)、渡辺允元侍従長(72)の各氏。芸術文化・スポーツの分野では東京五輪金メダリストの遠藤幸雄元日本体操協会副会長(71)と陶芸家の中里達庵(本名・中里忠夫)さん(85)が旭日中綬章を受章。漫画家の藤子不二雄(80)(同・安孫子素雄)さん(74)らには旭日小綬章が贈られた。

別枠の外国人叙勲は過去最高となる七十五人が受章。桐花大綬章にはモナデル元駐日米大使(80)が選ばれた。大綬章と重光章の受章者には五日に皇居でそれぞれ親授式、伝達式をする。

秋の叙勲 4千人余

政府は3日付で、秋の叙勲の受章者4028人と、外国人叙勲の受章者75人を発表した。

旭日大授章には読売新聞グループ本社長で主筆の渡辺恒雄さん(82)や、トヨタ自動車会長や日本経団連会長を務めた奥田碩さん(76)らが選ばれた。民間の受章者は42%

(1689人)、女性は8%(323人)。民間の受章者の割合は今春と同程度だが、女性は過去最高だった今春の9%よりも減った。

旭日章には顕著な功績を上げた人が選ばれ、おもに民間

人が対象になる。瑞玉章は公共的職務に長年従事した人が対象。

渡辺さんは報道への貢献のほか、審議会委員として行政運営の円滑化に努めたとして受章した。奥田さんは自動車産業、経済財政諮問会議などでの実績が評価された。

「忍者ハットリくん」や「プロゴルファー猿」で知られる漫画家の藤子不二雄(80)と安孫子素雄さん(74)、俳優の加藤剛さん(70)、井川比佐志さん(71)には旭日小授章が贈られる。外国人叙勲では、米副大統領や駐日米大使を務

めたウォルター・モンデルさん(80)が桐花大授章に選ばれた。同章は特に優れた功績を上げた人に贈られる。03年秋に導入された一般推薦による受章者は5人にとどまった。

読売新聞(朝刊 1 面)

秋の叙勲 4028人

旭日大授章 大西、奥田、滝井、渡辺氏

政府は3日付で、2008年秋の叙勲の受章者4028人(うち女性3253人)を発表した。今年春より55人多い。旭日大授章には、大西淳・四国電力会長(74)、奥田碩・元トヨタ自動車会長(76)、滝井繁男・元最高裁判所判事(72)、渡

辺恒雄・読売新聞グループ本社長・主筆(82)の4人が選ばれた。受章者の経歴を見ると、公務員が47%、民間42%、首長や議員11%。構成比は今年春と同じだった。

外国人叙勲の受章者75人(40か国・地域)も同日付

で発表された。現行制度が始まった1981年以来、最も多かった。ウォルター・モンデル元駐日米大使(80)が桐花大授章を受章するほか、日中関係の発展に貢献した陳錦華・元中国國家計画委員会主任(79)ら6人に旭日大授章が贈られる。

大授章の親授式は5日、皇居で行われる。△受章者の名簿11面、関連記事28面▽

大授章の親授式は5日、皇居で行われる。△受章者の名簿11面、関連記事28面▽

秋の叙勲 402人に榮譽

秋の叙勲の受章者が3日付で発表され、都内からは402人が選ばれた。各分野に功労のあった人たちのなかから2人に喜びの声を聞いた。

大学4年生のとき、知人の紹介で知的障害者入所更生施設「青梅学園」(青梅市)を見学した。利用者が元気に歌を歌い、体を動かす姿を目の当たりにし、「ここで働きたい」と心を動かされた。

瑞宝双光章 知的障害者生活支援員

鈴木 勇子さん 57 (青梅市)

大学卒業以来34年間、生活支援員として従事した。利用者の中には、言葉では意思疎通できない人もいる。一人ひとりの日常の動作から、例えば「食べ物は何が好きなのか」などをさりげなく観察し、「相手の気持ちに寄り添うこと」を

心に寄り添う信条に



意識してきた。利用者から学んだことは、取り組む姿に、「人として切れない。働き始めのころ、毎日ボタンかけを練習し、数年後に出来るように

歳代になった人もいるが、長い年月を一緒に過ごすほどに「人の優しさに触れている」と感じるといふ。
1年半前からは、同じ敷地内にある通所施設「かすみ」の里の施設長を務める。受章については「みんな頑張ってきたことの証しだと思ふ」と周囲への感謝を口にし、「これを励みに、体が動く限り現役で仕事をしたい」と誓った。

左手。ピアノ。希望の音色

「病気の後の活動が認められたと思ふ。障害を持ちつつ生きる道を模索する人たちの力になれば」と顔をほころばせる。

東京芸大を卒業後、1960年代にフィンランドに拠点を移し、ピアニストとしての活動歴は40年以上。2002年、同国での演奏中に脳出血で倒れ、右半身の自由を失った。両手での復帰を目指してリハビリに



旭日小綬章 ピアニスト

舘野 泉さん 71 (目黒区)

取り組んだが、思うように回復しなかった。そんな時、米国の音大で学んでいた長男がそと置かれていたのが、英

「右手がなくても音楽が半分になったわけじゃない」と吹っ切れた。ピアニストとして04年に復帰した。今は1年間のうち夏をフィンランド、それ以外を日本で過ごし、「左手のピアニスト」として各地で精力的に演奏している。
「障害があるが、音楽が好き」。こうした手紙やメールが数多く届く。舘野さんに献呈される左手用の楽曲も増えた。「左手だけの演奏は無理、という認識は変わりつつある」。表現への意欲は衰えない。

政府は2日付で、秋の褒章受章者761人(うち女性147人)と28団体を発表した。学術・芸術などが対象の紫綬褒章は、日本人男子として初の世界ゴルフ殿堂入りを果たしたプロゴルファーの青木功さん(66)や映画「釣りバカ日誌」シリーズなどで知られる俳優の西田敏行さん(60)らのほか、北京五輪で金メダル

を獲得した22人も選ばれた。3日に発令される。紫綬褒章は、人工多能性幹(iPS)細胞を開発した京大教授の山中伸弥さん(46)、歌手の森山良子さん(60)らも受章。金メダリスト22人のうち15人はソフトボールのメンバー。北島康介さん(26)は3度目の受章。ボランティアで高校を訪問し演奏活

秋の褒章

動を続けるエレキギター奏者の寺内タケシ(本名・武)さん(69)には、慈善活動に取り組んだ人が対象の緑綬褒章が贈られる。受章者の内訳は、紫綬褒章43人(うち女性24人)、緑綬褒章18人(同8人)と25団体、危険を顧みず人命救助に尽くした人への紅綬褒章が6人と3団体、その道一筋の黄綬褒章は250人

(同17人)、公共活動に貢献した人への藍綬褒章444人(同9人)だった。黄綬褒章には、五輪で使われる砲丸を作る旋盤工の辻谷政之さん(75)―埼玉県、紅綬褒章は昨年5月にJR神田駅で電車のドアに挟まったベビーカーから乳児を救助した亀井英紀さん(35)―東京都一らが選ばれた。

青木功さんら761人28団体

政府は2日付で「秋の褒章」受章者七百六十一人と二十八団体を発表した。スポーツや芸術などの分野で功績をたたえる

北島康介さん 3度目

秋の褒章761人・28団体

紫綬褒章は、北京五輪の競泳平泳ぎで二大会連続の二冠を達成した北島康介さん(26)、俳優の西田敏行さん(60)らが選

ばれた。北島さんは三度目の受章。三日に発令する。(受章者一覽を特設面に)

村勘三郎(同・波野哲明)が受章。女優の樹木希林(本名・内田啓子)さん(65)や歌舞伎俳優の中村勘三郎(同・波野哲明)が受章した。

さん(53)、ヒトの新型万能細胞(iPS細胞)を作製した京大教授の山中伸弥さん(46)らも選ばれた。スポーツ界では北島さん、ソフトボールの上野由岐子さん(26)ら北京五輪の金メダリスト22人や、プロゴルファーの青木功さん(66)が

受章した。ボランティア活動などをたたえる緑綬褒章は、三十年以上、学校での公演活動に取り組んだ寺内タケシ(同・寺内武)さ

ん(69)ら十八人(うち女性八人)、二十五団体が受章。その道一筋に励んだ人に贈られる黄綬褒章は江戸小紋染工の浅野栄一さん(62)ら二百五十人(うち女性は十七人)が選ばれた。人命救助に尽力した人に贈られる紅綬褒章は六人、三団体が受章した。

秋の褒章 761人・28団体

政府は2日付で今年、61人男性614人、体を発表した。3日に秋の褒章受章者761人と28団体、発令される。(スポーツ面に関連記事)

学術・芸術・スポーツで著しい業績を上げた人を対象とする紫綬褒章は、俳優の西田敏行さん(60)、歌手の森山良子さん(60)、世界で初めてiPS細胞(人工多能性幹細胞)を作り出すことに成功

した京都大教授の山中伸弥さん(46)らが受章。スポーツ界からは、競泳の北島康介さん(26)ら北京五輪の金メダリスト22人のほか、昨シーズンのフリースタイルスキー・ワールドカップ女子モーグルで総合優勝を果たした上村愛子さん(26)、プロゴルファーの青木功さん(66)らが選ばれた。また、30年以上にわたり高校などで公演し、エレキの神様とも呼ばれるギタリストの寺内タケシさん(69)が緑綬褒章(社会奉仕活動対象)を受けた。内訳は紫綬褒章43人▽緑綬褒章18人と25団体▽農業や中小企業経営などで功績があった人が対象の黄綬褒章250人▽教育や福祉活動に功績があった人が対象の藍綬褒章444人▽人命救助に尽力した人が対象の紅綬褒章6人と3団体。【篠原成行】

「66歳でも頑張れる」

紫綬褒章
青木選手

2日付で発表された秋の褒章で、スポーツ界からは24人が紫綬褒章を受章した。今夏の北京五輪で金メダルを獲得した競泳男子平泳ぎの北島康介(26)ら個人種目の7選手と、ソフトボール日本代表メンバーの15選手が受章。他に昨季のフリースタイルスキー・ワールドカップでモーグルの種目別総合優勝を果たした上村愛子(28)▽日本人プロゴルファーで唯一、米欧豪日の「世界4大ツアー」で優勝を経験した青木功(66)の各選手に授与される。(社会面参照)

後輩に「闘争心もつと」



紫綬褒章受章が決まった喜びを語る青木功—山本晋撮影

「世界のAOKI」界に飛び込んだ。はい我孫子市立我孫子中(千葉)を卒業後、キ超える。受章を「年の順かな」と謙遜(けん

そんなながらも「褒章をいただくことで、66歳でも頑張れる、何かできると思ってもうえればうれしい」と喜んだ。

国内ツアーで通算51勝。尾崎将司、中嶋常幸、杉原輝雄らとの激しいライバル争いで一時代を築き、ゴルフ人気を底上げした。「オレが世界一のゴルフフ

「なんだ、負けるもんかと思った先が、世界だった」と、米国ツアーに挑戦した80年代を振り返る。

80年の全米オープン、第一人者ジャック・ニクラスとの激闘の末、日本男子最高のメジャー2位。「日本で外国選手が賞金をさらっていくのが、すごく悔しかった。だから反対のことをしてやろうと思っただけ」。海外のツアーでは7勝を挙げ、世界4大ツアーすべてで勝利する活躍で「世界のAOKI」と呼ばれた。シニアでも海外9勝。国内では昨年の日本シニアオープンで「65」のエイジユニット(年齢以下のス

「妻や娘への感謝はもちろん。だけどオレは裕福でなかっただけに、両親が聞いたら喜んでくれたらうなあ。」
口調は終始べらんめえの「青木節」だったが、こう話した時ばかりは、目尻を押さえたのが印象的だった。

【上稿瀬浄】



西田敏行さん

紫綬褒章 西田さん

受章の知らせを受けた瞬間、小学生のころに父親に連れられて通った小さな映画館の風景がふっと頭をよぎったという。

年に劇団青年座入り。温かな笑顔と味のある演技で、映画やドラマなどで存在感を示し続けてきた。「三十八年間の俳優生活を『よつ頑張ってきた』とほめていただいたように、素直にうれしい」

「役者は天職」

「主演公ハマちゃんを演じるコメディ映画『釣りバカ日誌』シリーズは、公開中の作品で実に二十一本目となる。常に「面白い役者」と言われることを目指してきた。「役者は『天職』。これまで大きな壁や障害もあつたのかもしれないが、ずっと乗り越えてこられた気がします」。かみしめるように振り返った。

東京新聞 (朝刊 24面)

万能細胞で注目の山中伸弥さん(46)、深みのある歌で引きつける森山良子さん(60)、「釣りバカ日誌」でおなじみの西田敏行さん(60)。秋の褒章が発表、努力と功績が評価された受賞者たちが喜びを語った。



京都大教授 山中伸弥さん(46)

「iPS細胞の研究はまだ生まれたばかりの赤ちゃんのようなもの。(紫綬褒章は)研究への励ましと受け止めている」。再生医療の実現につながる「iPS」の万能細胞づくりに世界で初めて成功。四十六歳の若さで

研究はまだ赤ちゃん

の受賞に「わたし自身が一番驚いている」と語った。大阪府で神戸大医学部卒。柔道などに親しみ、スラッシュ医学の臨床医を目指したが、眼界を感じて基礎医学の世界へ。「分化した細胞の時計を逆回転できないか」と考え、さまざまな細胞に分化できるiPS細胞の作製に役立った。自身の成果について「まだ医療現場からは必要とされていない」と、あくまでも謙虚。「iPSも早く再生医療や創薬に役立てたい」と決意を新たにした。

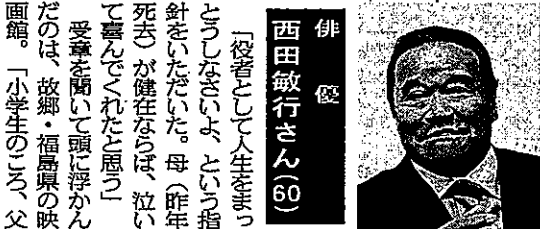


歌手 森山良子さん(60)

物心ついたころには歌手になると決めていた。好きな道を、好きな形で歩んで四十年。「ソングライターとしてきたことへの褒章がな」と、受け止める喜びを語った。思い出深い曲は、やはり沖縄戦で父を亡くした少女

母の一言で目覚めた

の思いを歌った「さとうきび畑」。しかしテーマの重さ、歌唱の難しさから「二十三年は自分のものにならなかった」と打ち明ける。転機は、海軍戦争のころの「コンサートの母の一言」。「この時代は愛だの恋だのばかり歌うのはおかしい。あなたにはもっと歌うべき歌が与えられているはず」。「さとうきび畑」を振り返る。今年一年で百公演をこなす。「これからはたくさんのお客を越え、納得していた



俳優 西田敏行さん(60)

「役者として人生をまっとうしてはじめて、この指針がきた。母(昨年死去)が健在ならば、泣いて喜ぶらうけれど、この受賞を聞いて頭が浮かんできた。故郷・福島県映画館。「小学生のころ、父

志した「面白い役者」

親を通った。いつかスクリーンに向って、行きたいと感じたのが役者を指したきっかけ。大学を中退し、門をたたいた劇団青年座。新人時代に端役で出演した舞台の劇評で「面白い」と言われ、個性が目覚めた。「iPSも早く再生医療や創薬に役立てたい」と決意を新たにした。

毎日新聞(朝刊 26面)

これからもおもしろい役者で



古里・福島県郡山市の映画館に通った。6本立ての映画を、12時間座って見た。役者への道はあつちから芽生えていたんだと思うな

22歳の時、舞台「写楽者」で写楽を演じ、役と本気で取っ組み合いのことを学んだ。「おもしろいと言われるのが最高の褒め言葉」。これからも、おもしろい役者であり続けたい【若狭毅】

俳優 西田敏行さん(60) 「38年ぶりに頑張ったね、(若狭さん)だったね、残りの役者人生もちゃんとまっとうしないよ、と言ってもらっているように」 今までの受賞者の顔ぶれを見ても、芸能に携わってきた者として誇りに思う。 知らせを聞き、よみがえってきたのは、幼いころのこと。父の自転車の荷台に乗って、古里・福島県郡山市の映画館に通った。6本立ての映画を、12時間座って見た。役者への道はあつちから芽生えていたんだと思うな

もっと力をつけ納得されたい



「長いこと歌ってきたので、その褒めかな」。67年、フォーク歌手としてこの広い野原いっぱい」でデビュー。ジャズからクラシカルな曲まで幅広いジャンルに挑戦を続け、今年年間100回ステージに立つ。 ジャズ界のバイオニア、故・森山久さんの長女。物心ついた時から歌手になると決め、ラフソングなどを歌ってきた。転機は「さとうきび畑」。戦争を知らないのに歌うのは当初は気恥ずかしかったというが「海軍戦争のころ、コンサートに来た母から言われたんです。『愛だの恋だの歌っているのはチャップリンおかし』って。逃げたんですね」。

「もっと力をつけて、納得してもらえんかな」でありたい【若狭毅】

歌手 森山良子さん(60) 「長いこと歌ってきたので、その褒めかな」。67年、フォーク歌手としてこの広い野原いっぱい」でデビュー。ジャズからクラシカルな曲まで幅広いジャンルに挑戦を続け、今年年間100回ステージに立つ。 ジャズ界のバイオニア、故・森山久さんの長女。物心ついた時から歌手になると決め、ラフソングなどを歌ってきた。転機は「さとうきび畑」。戦争を知らないのに歌うのは当初は気恥ずかしかったというが「海軍戦争のころ、コンサートに来た母から言われたんです。『愛だの恋だの歌っているのはチャップリンおかし』って。逃げたんですね」。

iPS細胞 早く役立たせねば



再生医療に役立てられる見通しを「何年後かは言えない」と答えるのは、患者を失望させたくないから。基礎研究を志す若者が激減しているとも感じるが「研究の面白さは予想外のことが起きること。私では考えつかない新しい応用法が生まれてこないか、楽しみにしている」と語る。【朝日弘行】

京都大教授 山中伸弥さん(46) さまざまな細胞に成長する可能性がある人工多能性幹(iPS)細胞を世界で初めて作った。再生医療実用化への期待が集まる。 「驚いています。研究を始めて20年未滿。長年、業績を積み重ねてこられた方の章だと思うので」。恐縮すると同時に「iPSも早く役立たせねばと決意を新たにしています」。受賞は実用化への励ましと受け止めている。

再生医療に役立てられる見通しを「何年後かは言えない」と答えるのは、患者を失望させたくないから。基礎研究を志す若者が激減しているとも感じるが「研究の面白さは予想外のことが起きること。私では考えつかない新しい応用法が生まれてこないか、楽しみにしている」と語る。【朝日弘行】

△東京▽「町田の消防団で褒章は初めて。名誉なこと。皆さんのおかげでいただけ感謝の気持ちが一番です」

町田市消防団発足50年の年の受章。父が経営する「五十嵐溶接」に入社後、誘われて「地元への付き合い」と入団。以後32年間、火災出動だけでなく、毎月3度の器具手入れや消火栓点検、防災訓練の指導などを率先して活動してきた。

「約25年前、本署のポンプ車が出払った後、地元で二次火災があった。団員4人が出て、団のポンプ車で水の膜を作り、隣家への火災を防いだ。隣のおばあさんが心臓発作で死亡し、改めて火は怖いと感じた」

各地で消防団員不足が指摘される中、町田は深刻な状態ではない。しかし、サラリマン化は進行している。「この輩が他の人への励みになればいい。今後は団長を支えて、活動を続けていきたい」(石井豊)



二次火災から得た教訓

藍綬褒章 消防団副団長 五十嵐忠さん(54)

秋の褒章

△神奈川県▽「まさか、とびっくりしたがありがたい。皆の声をよって来た。応援してくれた人がいたからの受章」と喜びを謙虚に語る。

横浜市漁業協同組合代表理事組合長だが、漁師にならたての40年前を今でも夢に見る。大学を卒業し、22歳で父親の跡を継いで、アナゴは漁に出ればいつも豊漁で、「アナゴがインディ・ジョーンズの蛇のようにあふれかえっていた」。以来、「アナゴは獲れるかなと考え、工夫して魚が獲れたときのうれしさ」に取りつかれ、海に人生をまかすようになった。

アナゴあふれた40年前

「アナゴは獲れるかなと考え、工夫して魚が獲れたときのうれしさ」に取りつかれ、海に人生をまかすようになった。平成15年に組合長就任。漁獲高が減少していたシヤコの保護にも尽力してきた。禁漁などが実を結び、数は回復。今は再開時期を見計らっている段階だ。「シヤコは漁の腕に差が出ない。シヤコが獲れば皆が潤い」。組合員を思う組合長だ。(中村智隆)

黄綬褒章 漁師 小山紀雄さん(62)



黄綬褒章 中華料理人 古作俊夫さん(61)



△千葉▽おいしいものが食べられる仕事をしたいと、高校を出て「中華料理」の世界へ。東京・丸の内のパレスホテル調理課中国料理参与だが、駆け出しのころ、エビチリを口に入れて「こんなおいしいものがあつたのかと感動した」と笑い、懐かしむ。虎ノ門の老舗店をふりだしに、広東、四川など中国各地の料理を次々に、モノにする。パレスホテルには中華料理のレストランがオープンした昭和54年に入社した。

フカヒレの姿煮など上海料理が、売りが、だが、「要望があればどんな料理でも出します。それができるのが一流ホテルの料理人」と言い切る。一方、「本当においしいと思われているか、満足されているか。常に気を張っています」と繊細だ。「お客さまに喜んでほしい一心でやってきた。後進のためにも頑張る」と表情を引き締めた。(佐藤修)

若き日に食べたあの味

2日付で政府から発表された秋の褒章。1都4県の受章者に喜びの声を聞いた。(東京・千葉・埼玉・神奈川県)の受章者はインターネットの「MSN産経」のトップページから「地方」↓「関東」↓「静岡は「地方」↓「中部」とクリックしてください)

黄綬褒章 時計修理工 岩本吉彦さん(71)



△静岡▽「折れた心輪を修復するのは『入れればさ』、壊れた歯車を復元するのは『入れ歯』というんだ」

職人歴48年。古時計修理の際には道具から極小の部品まで「から自作する。時計やラジオを組み立てては分解していた中学時代。機械少年」には天職だった。高校卒業後、埼玉県の時計店に弟子入りした半世紀前を振り返り、「兄弟弟子が修理に失敗した時計を押しつけられ必死に直していた。親方が怖かったから」と話す。

独立後は、戦前から続く実家の時計店を切り盛りしてきた。当時はねじ巻き式の機械時計の全盛期。電池時計が普及した現在でも、他店が修理を断念した形見や記念品といった唯一無二の古い時計の修理依頼が後を絶たない。「またまた半人前。今でも修理を頼まれた外国の時計で、こんな時計もあるのかと驚くことがあるからね」(玉野栄次)

半世紀…「まだ半人前」

平成 20 年 11 月 2 日 (日)

産経新聞 (朝刊 22 面)

藍綬褒章 保護司 小川スミ子さん(73)



△埼玉▽「罪を犯した子の、良いところを見る。信じてあげて、ほめること。昭和56年から、100人以上の更生に力を尽くしてきた。打診された当時は、すし店を営んでいたため固辞。しかし、「人助けだから、決して人生のマイナスにはならない。誰しでもできることじゃない」と夫に説得された。店の定休日活動する多忙な日々も「立派になった姿を見るのが何よりも喜び。やめようと思ったことは一度もない」という。印象に残るのは、「やっていた」といえないと繰り返す少年の更生。うそと分かってはいたが、「信じている」と言い続けた。数年後、「僕はあんなにだましていたのに。信じ続けてくれたのは小川さんだけ」と打ち明けられ、涙がこぼれたという。「家族の支えがあつて長続きできた。定年までありったけの笑顔でやっています」(大矢博之)

信じる心で子供を更生